

植物の声が聞こえる・・・

原 賢志

私ごとですが、農機具が不調になったことなどの理由で、この春から稲作(田んぼ)をしないことを決断しました。例年であれば、5月の連休には田植えをして、6月には畦の草刈りを2,3度していました。しかし、今年は、田んぼをしないこともあり放置されて伸びに伸びた草を、やっと先日1日かけて刈り終えました。気付いたのは、昨年までは、草刈りを終えるたびに、心地よい達成感と満足感があったのですが、今年は、きれいになった畦道を見て達成感はあるものの、不思議と満足感がありませんでした。昨年までであれば、草を田んぼの際まで丁寧に刈ることで、田に植えられた苗が光をいっぱい受け輝いているのを見たり、風通しがよくなって苗がゆれるのを見て、苗が喜んでるように感じたり、「ありがとう」とお礼を言ってくれているように感じて、自分のしたことが苗のためになったように感じ、有用感というか満足感を得ていました。

子供たちの中には、植物を育てる時に、植物に話しかけている子が何人もいます。アサガオに「大きくなってね。」と声をかけながら、水をあげている1年生。「大きな実がなるようにがんばってね。」とナスやキュウリに声をかける2年生がいます。話しかけると同時に、植物からの声を感じるのか、「しまった、水をあげなくちゃいけない『喉が渴いた』と言っている。」と話す子供たち。実際に植物は声を出して、話しかけてくることはありませんが、そこには、植物の立場に立って考える優しい心が育っていることを感じます。



植物の立場に立って考えら

<5年生 トマトの定植の様子>

れる子には、その他の様々な場面でも相手の立場に立って考えられる優しい心が育っています。また、植物のよりよい生長に向けて工夫をする力がついたり、誠実に役割を果たす力がついたり、さらには、その活動を通してひとつの事に集中して打ち込む力が育ったり、好き嫌いが減ったりすることもあります。

今年度も、地域の様々な力をお借りして、いろんな自然と触れ合う活動をしています。植物の声が聞こえるようになることは、ほんの一例ですが、様々な体験を通して、豊かな心が育っていくことを願っています。

◇学校運営協議会(コミュニティ・スクール)のコーディネートで、公民館を見学・・・

6月21日に2年生は生活科の勉強で公民館見学に行って来ました。学校運営協議会で「加子母の子供たち(特に低学年)には、加子母に興味をもち、好きになってほしい」という願いが話し合われ、協議員さんのコーディネートで公民館見学(図書館見学)・総合事務所見学が実現しました。図書館では、「ひなたぼっこ」さんのご協力で「本探し」をして、いろんな本がある事を知り、1冊の本を借りました。総合事務所では所長さんから「事務所では地域の困ったことを助けたら、解決したりする仕事をしている」ことを教えていただきました。また、公民館のたくさんの会議室を見学しました。「将来は、ここで地域のことを相談する大人になっ



<所長さんの話を聞く2年生>

てね」とお願いされて、元気に「はい」と返事をしました。学校と地域が連携して、子供たちの深い学びがまた1つ実現しました。お忙しい中たくさんの方にご協力いただき、誠にありがとうございました。

よりよい生活を目指し、考えて行動(表現)する 仲間とつながり、思いやりの心をもって生活する 自分に合った方法で挑戦し、根気よく続ける